

1

片瀬地区構想

KATASE AREA



現況と課題

1 現況

古くから集落が形成されていた片瀬地区は、江戸時代には江の島詣で旧道沿いは賑わい、中世期に蓄積された社寺等文化財がまちの中に豊富に存在する、歴史と文化のまちです。現在では、湘南海岸や風致地区、景観地区に指定している江の島の自然環境を活かした首都圏有数のレクリエーション拠点が形成されており、本市のイメージを代表する地区の1つでもあります。近年でも観光施設のリニューアルや漁港整備等が進められ、多くの観光客が訪れています。

自然発生により形成された古くからの住宅地のほか、明治期から昭和初期に主に別荘地として開発された住宅地や、昭和40年代に一体的な住宅地開発が行われた片瀬山等の閑静な住宅地があり、市内でも高齢化率の高い地区となっています。また、国道134号線や国道467号沿いでは、マンション立地が進んでいます。

海、川、斜面林等恵まれた自然環境に取り囲まれていると同時に、地震時の津波や台風時の高潮、河川の氾濫、崖崩れ等の災害の危険性を伴っています。残された斜面緑地も、開発により減少している箇所があります。

鉄軌道は小田急江ノ島線、江ノ島電鉄、湘南モノレールの3路線があり公共交通が充実していますが、地区及び広域幹線となる都市計画道路の整備状況は低く、また生活道路面で不十分な地域も存在しています。



2 都市づくり上の課題

- ◆高齢化率が高く、超高齢社会における地区形成、まちづくりに取り組むことが不可欠です。比較的に公共交通の利便性が高い一方で、江の島や片瀬山等では地形の高低差が大きく、移動しやすい環境づくりが求められます。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその後のまちづくりを見据えた、都市基盤の強化が必要です。
- ◆海沿いや河口部への立地、崖地や斜面地が多くある地形、狭隘・行き止まり道路が多い生活道路網等の地区の特性を踏まえ、土砂災害や津波浸水想定等に対する防災・減災を図るとともに、避難や救援を支える施設の整備・充実が必要です。
- ◆江の島や片瀬山周辺等に残された緑地は、歴史・文化と一体となり風致を育んでいる貴重な資源となっています。これらの緑地の保全に向けた取組が必要です。
- ◆広域海洋リゾート・レクリエーション拠点である片瀬・江の島では、多くの観光客が区内を観光・回遊をしています。観光・交流の促進をめざすとともに、地区住民が快適に安心して暮らせる環境も不可欠であり、共存が求められます。
- ◆広域的な視点から横浜藤沢線においては、周辺の自然環境、居住環境への最大限に配慮した整備促進を図ることが必要です。



3 地区の指標

※グラフ中の数値は四捨五入を用いているため、合計が100%にならない場合があります

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

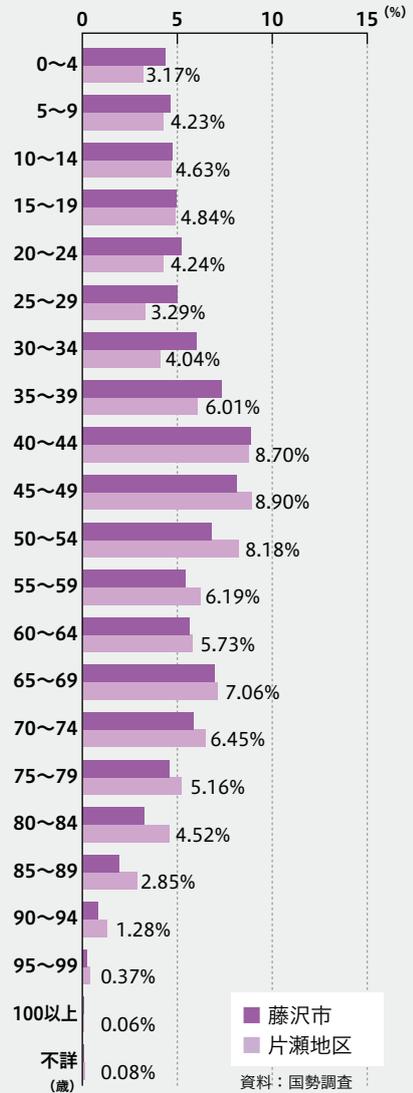
資料編

人口の状況

資料：国勢調査

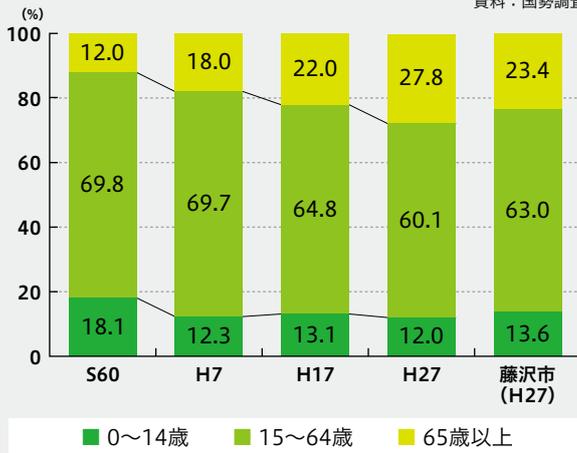
	S60	H7	H17	H27
全体(人)	17,049	17,604	20,082	20,129
増加率(%)		3.3	14.1	0.2
人口密度(人/km ²)	5,645	5,829	6,650	6,589
世帯数	5,592	6,517	8,163	8,643
増加率(%)		16.5	25.3	5.9
世帯規模(人)	3.05	2.70	2.46	2.33

年齢別人口の構成(平成27年)



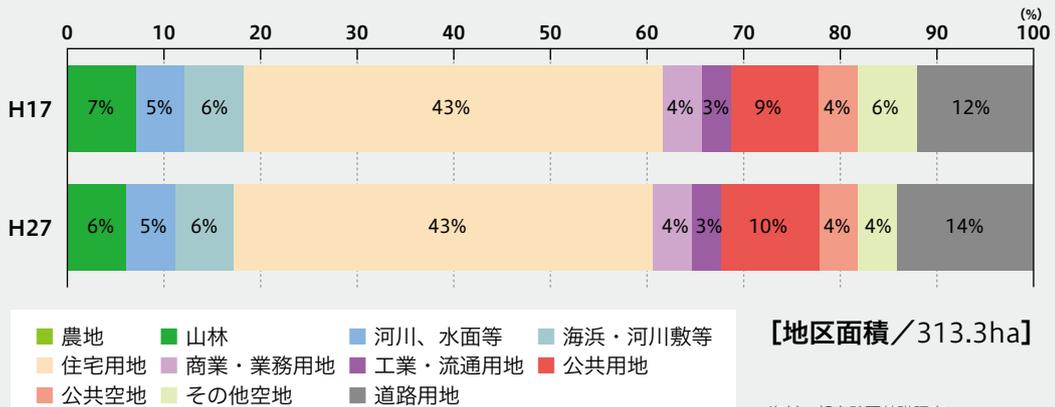
年齢三分構成比の推移

資料：国勢調査



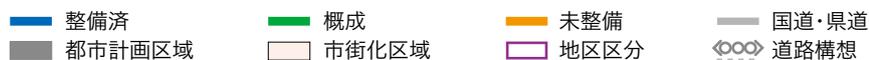
土地利用構成割合の推移

- ・最も多いのが住宅地で、地区の4割を超え、都市的土地利用の半分を占めています。
- ・山林や河川、海浜等の自然的土地利用が地区の2割を占めています。
- ・平成17年から10年の間では、土地利用構成では大きな変化はありませんでした。



道路・鉄軌道の状況

都市計画道路の進捗状況



- ・小田急江ノ島線の片瀬江ノ島駅と江ノ電、湘南モノレールがそれぞれ2駅、立地しています。
- ・都市計画道路のうち、国道134号線や467号は概ね整備を終えていますが、横浜藤沢線と片瀬辻堂線は未整備であり、骨格的な道路網が不十分となっています。

水・緑の状況

緑地減少の状況(H17→H27)



- ・境川の下流・河口部や湘南海岸等の水と、片瀬山や江の島の斜面林等の緑に囲まれています。
- ・都市計画公園のうち、大規模なものでは湘南海岸公園が一部含まれています。片瀬山公園は、まだ未開設部分が多くなっています。
- ・境川及び沿岸部は境川緑地に指定されています。
- ・斜面地を中心に、緑地が減少しています。

*土地利用現況については、都市計画基礎調査の項目変更等により、実際の土地利用の変更の有無にかかわらず、土地利用転換があったものと見なされる場合があります。 資料：都市計画基礎調査

地区の将来像

歴史の薫りと潮の香りがただよう ふれあいのまち 片瀬・江の島

地域の歴史や湘南の自然環境を活かした、首都圏有数の広域海洋リゾート・レクリエーション拠点として、片瀬・江の島の観光交流機能の充実を図りつつ、日常の住民の暮らしが息づき、共存する地区をめざします。

地区の更なる高齢化を見据え、身近な生活道路での安全・安心な道づくりや公共交通の充実、地区商店街の活性化を図るとともに、地域のシンボルとなっている緑の保全に取り組む等、次世代に残せる地区づくりを進めます。

まちづくりの基本方針

土地利用

①広域海洋リゾート・レクリエーション及び地区の拠点としての機能更新・充実

- ◆片瀬・江の島の風致・特性を高める観光交流機能の更新・充実を図ります。
- ◆観光及び地区の暮らしを支える商業・サービス機能の維持・充実を促進します。
- ◆土地利用や建物の立地・更新時には、住宅地も含め周辺環境に及ぼす影響を考慮しながら、隣接する住宅地と調和・共存が図られるよう、誘導方策について検討します。

②安全・安心で閑静な住宅地として、居住環境の維持・改善

- ◆狭隘道路の解消や行き止まり道路を増やさない、避難地となる公園整備、ブロック塀の改修等、安全・安心の向上を図ります。
- ◆質の高い居住環境を形成している住宅地ではその維持・充実に向けた住民発意のまちづくりを支援します。
- ◆低層住宅地と近接する場所では、周辺環境への調和を配慮した土地利用及び建物更新を促進します。

③地域に密着した生活サービスの場となる地区拠点の充実

- ◆市民センター周辺や商店街では、地区の暮らしを支える身近な商業・サービス機能の維持・集積による維持・充実を促進します。

交通

①様々な交流及び地区内交通を支える広域交通網の形成

- ◆片瀬・江の島周辺の広域交流を支え、幹線道路の慢性的な渋滞の軽減等に資する横浜藤沢線の整備を周辺の自然環境、居住環境への配慮のもと促進します。
- ◆鉄(軌)道間の連携の向上、海洋交通による新たな広域連携及び鉄道、バス、航路等の相互連携の強化等、公共交通の充実を促進します。
- ◆湘南海岸沿いのサイクリングロードを活かし、自転車による観光交流ネットワークづくりを推進します。

②生活の利便性向上に向けた安全・安心な交通環境の充実

- ◆鉄道駅周辺や市民センター等の主要な公共施設の周辺を中心に、安全・安心な道づくりを進めます。
- ◆多くの来街者及び住民等が利用する都市拠点や観光・交流施設及びその周辺では、歩行空間等のユニバーサルデザイン化を図ります。湘南モノレール湘南江の島駅ではバリアフリー化を促進します。
- ◆円滑な自転車利用に向け、駐輪場整備等を検討します。
- ◆片瀬江ノ島駅駅前広場などの都市基盤については、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその後のまちづくりを見据えて、安全で快適な環境づくりを進めます。

③地区の暮らしを支える生活道路網の充実

- ◆災害・緊急時、あるいはコミュニティ間の連携強化に向けて、未整備の都市計画道路の整備や地区の生活道路網の充実を図ります。
- ◆江の島山頂へのアクセスのバリアフリー化に向け検討します。

水・緑

①江の島・湘南海岸・境川を結ぶ水と緑によるレクリエーション・交流ネットワークの形成

- ◆湘南海岸公園や江の島を核に、境川により市内の水と緑をつなげ、鎌倉の海岸部とも連なる水と緑のネットワークを形成します。

②斜面緑地や社寺林の維持・保全及び宅地内緑の保全・創出

- ◆龍口寺から片瀬山周辺の斜面樹林や、社寺林の維持・保全に努めます。
- ◆まとまった地区の緑として、既存の緑を活かしながら広域避難場所となる片瀬山公園の整備を推進します。
- ◆風致や景観の維持・向上に向けた緑の保全や緑化に努めます。
- ◆宅地における庭への植樹や生け垣化、壁面緑化等、住民による緑化活動を促進します。

景観・防災・都市づくり等

①広域海洋リゾート・レクリエーション拠点にふさわしい景観の形成

- ◆江の島では、遠景にも配慮しながら湘南海岸のシンボルとしての景観の保全に向け、土地利用や建築、広告物の適切な誘導を推進します。
- ◆片瀬江ノ島駅周辺等も含めた湘南海岸では、都市拠点にふさわしい都市空間・景観の形成を周辺環境との調和を配慮しながら、建築や広告物の誘導のためのルールづくりを検討します。

②災害に備えた取組の推進

- ◆境川の治水対策を促進するとともに、下水道整備等による浸水対策を推進します。
- ◆崖崩れの危険箇所の対策を促進します。
- ◆津波に対する避難対策の充実を図るとともに、河川の遡上対策の促進に向けた検討を進めます。
- ◆地域の防災力向上に向け、狭隘道路等の解消や公園・広場の確保、緑化等を促進します。

片瀬地区将来構造図

序章

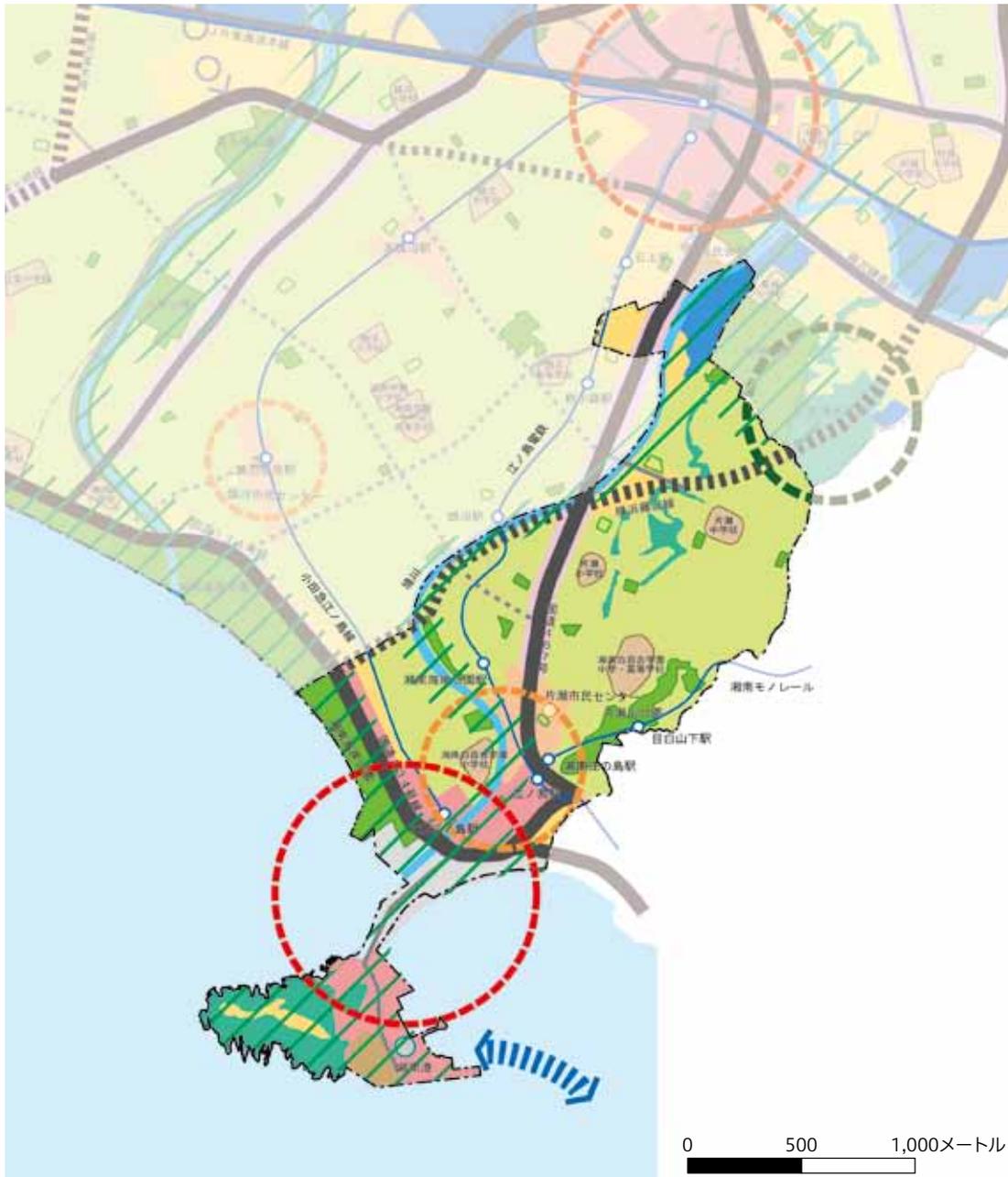
第1章

第2章

第3章

第4章

資料編



	都市拠点		鉄(軌)道		低層住宅専用ゾーン
	地区拠点		自動車専用道路		中高層住宅専用ゾーン
	緑の保全拠点		主要幹線道路		一般住宅ゾーン
	都市農業交流拠点		幹線道路		集落地ゾーン
	市街地検討エリア		補助幹線道路		田園ゾーン
	13地区		歩行者自転車専用道路		緑地等ゾーン
	公共施設		(実線:整備済)		遊水地ゾーン
	学校(小、中、高、大学)		(点線:未整備・概整)		文化・教育・公共施設ゾーン
	港湾		(○:構想)		商業・業務ゾーン
	水と緑のネットワーク		新たな公共交通(構想)		地域型商業ゾーン
	都市計画公園 (整備済(一部整備済含む))		海上交通		沿道型商業ゾーン
	都市計画公園(未整備)				工業住宅複合ゾーン
					工業ゾーン
					新産業ゾーン